

学生フォーラムの活動

学生フォーラムは、現在、東京周辺の3つの大学から6名の博士課程の学生で構成されている。AIに関係ある(無関係でも)面白い研究者に話を聞きにいき、それを記事にしていく予定である。先号第1回では、脳科学者である茂木健一郎氏にお話をうかがった。

まだ、活動は始まったばかりであるが、この学生フォーラムが目指すひとつの目標を述べる。われわれ大学院生は、人工知能に関連する研究者として、研究活動を始めたばかりである。いま活躍している人工知能の研究者も、昔はわれわれと同じ立場だったわけであるが、彼らはどのようなきっかけで「人工知能」を志したのだろうか。そのとき、どのような考えや見通しを持っていたのだろうか。また、どのような体験を経て、考え方が変わっていったのだろうか。現在取り組んでいる研究の目指すところはどこなのだろうか。

人工知能には歴史の変遷がある。1956年のダートマス会議以来、1960年代のゲームを中心とした「推論中心の時代」、70年代の様々な知識表現法が生まれた「知識の時代」、エキスパートシステムなどAIの実用化が進展した80年代を経て、エージェント、発想支援、データマイニングなど新しい領域が生まれている。当学会でも、近年、近未来チャレンジ、ことば工学などといった新しい活動が行われている。

このような人工知能の歴史は、教科書に書かれており読めばわかる。しかし、このような変遷の中で、個々の研究者が何を考えてきたかに、われわれは興味がある。なぜ、記号処理に頼る人工知能がだめだったのか、なぜ閉じた問題にうまくいった方法が実世界ではうまくいかないのか。研究者へのインタビューを通じて、その人が感じてきた具体的な話を生で聞き、現在行っている研究の現在という文脈での意義、これからの方向性を紹介していきたい。人工知能以外の分野の研究者へも積極的にインタビューを行い、それぞれの研究者が見ている景色(view)を相互に(inter-)つないでいくことができれば、われわれにとっても読者にとっても得るものがあると思う。

現メンバーの紹介

学生フォーラムは、現在、東京近辺の3つの大学から6名の博士課程の学生で構成されている。月に一度程度

集まり、AIの意義から2001年宇宙の旅まで、さまざまな話に花を咲かせている。

各メンバーの簡単な略歴と抱負を紹介する。

井庭 崇 慶應義塾大学政策・メディア研究科 後期博士課程2年。マルチエージェントモデルによる経済シミュレーション・プラットフォームの構築、およびその研究方法論を研究。新しい社会科学(特に経済学)への構築に貢献を目指す。共著書に『複雑系入門』など。

植野 研 慶應義塾大学政策・メディア研究科 古川康一研究室 後期博士課程2年。人間のすばらしき身体的スキルに魅せられ、身体構造・機能に基づく効率的なスキル向上の方法論に興味を持つ。現在バイオメカニクスにおける機械学習・情報理論的アプローチに関する研究を行っている。趣味は楽器演奏、スポーツ全般。

佐久間 淳 東京工業大学総合理工学研究科知能システム科学専攻 小林重信研究室 博士課程1年。同大学生物工学科を卒業後、情報系に移りアルゴリズムの研究を行っている。情報論的アプローチによる生命システムの解明が目標。

鈴木 健 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 池上研究室 博士課程2年。物理学科を卒業後、複雑系・力学系の文脈から、心の理論やメタ学習などの認知現象の研究をめざす。

松尾 豊 東京大学大学院工学系研究科 電子情報工学専攻 石塚研究室 博士課程2年。卒論で仮説推論の研究をし、修士課程では電力システムの最適化問題に研究テーマが変わるが、やっぱりAIには面白い人たちが多いので博士課程で戻ってくる。

村山 立人 東京工業大学 大学院総合理工学研究科 知能システム科学専攻 樺島研究室 博士課程2年。物理学科を卒業した後、大学院では統計力学を情報理論や数理工学の話題に応用する研究を行っている。

今後の活動

まだ、学生フォーラムの活動ははじまったばかりであり、面白い企画があれば取り入れていきたいと考えている。興味をもった大学院生、また言いたいことがあるという研究者の方は、下記にご連絡下さい。

学生フォーラムメーリングリスト JAICO

jaico@freeml.com

(Japanese AI Communication Online)

(文責 松尾 豊)